

SOWER

ソア = 種まく人

No.23

January 2004

財団法人

日本聖書協会

特集 アートバイブルをどう見る、どう読む？



新22 聖書の 世界

写真／文 横山 匡



バベルの塔

バビロン時代に建造されたジググラトが、現在もいくつかイラクに残っています。イランにも、一九三五年にイラクとの国境近くで発見されました。これは、紀元前一三世紀の中ごろに首都シュシュ（聖書ではスサ）の近くに宗教的中心地としてエラム王が建立したものです。現在は下の部分が修復され、「チヨガー・ザンビールのジググラト」として世界遺産に登録されています。規模は一〇五メートル四方で、三段目まで残っていますが、造られた当時は現在の三倍、五〇メートルもの高さがあったようです。

「彼らは、『さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう』と言った。……こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。」

創世記十一 章四〜九節

最近の中近東に源を発する混乱の原因は何でしょう。神を畏れぬ人間の傲慢さが、「聖戦」を引き起こし、それぞれの優位を世界で獲得しようとしているためではないでしょうか。

わたしは福音を恥としない。 福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、 信じる者すべてに救いをもたらす 神の力だからです。

(ローマの信徒への手紙1章16節)

パウロは、福音はわれわれに救いを得させる力、ダイナマイトのような爆発的な力であると宣言しています。

私たちギデオン会員の聖書贈呈は、ときに「無駄」「非効率的」と批判されます。

いいえ、違います。聖書は明確に、福音には人を救う力があると約束しているからです。

また神様は、ギデオン会員が贈呈した聖書を豊かに用いてくださり、続々と主を信じる人を起こしてくださっています。

いまや世界179カ国で年間6000万冊以上の聖書がギデオン会員によって贈呈されています。

私たちはこの聖書のみ言葉を確信して、今日も教会から押し出されて伝道の最前線に立たせていただいております。

愛する主にある皆様がたのお祈りとお支えを感謝します。

新井 秀

あらい しゅう

財団法人 日本国際ギデオン協会 総主事



表紙の言葉

「情熱の国スペイン」のイメージはフラメンコ・闘牛・サッカーですが、フィエスタ(お祭り)はスペインの人々の生活に欠かせません。キリスト教の行事にそった聖体祭・聖週間・コミュニオン(二度目の洗礼式)等は厳粛に行われます。

(絵=月本佳代美)

C O N T E N T S

Sower
No.23
2004

特集

2 『アートバイブル』を
どう見る、どう読む？

JBS 情報

8

銀座の街にみ言葉の光？！
新共同訳ノーマンV対照新約聖書

Eメール 渡部 信

10

聖書セミナー② 辻 学
新約聖書の世界――
牧会書簡と初期キリスト教

12

エッセー② 渡辺 総一
み言葉を芸術にする――
カナダの教科書に載った聖句選集の絵

14

人物と聖書 鈴木 範久
高村光太郎と聖書

16

『手話訳聖書』最新情報

17

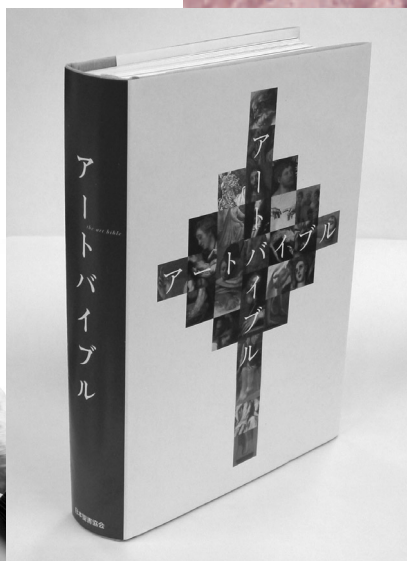
聖書図書館蔵書シリーズ――②
聖ベネディクト読誦集

特集

『アートバイブル』を どう見る、どう読む？



東京銀座の教文館書店での販売の様子

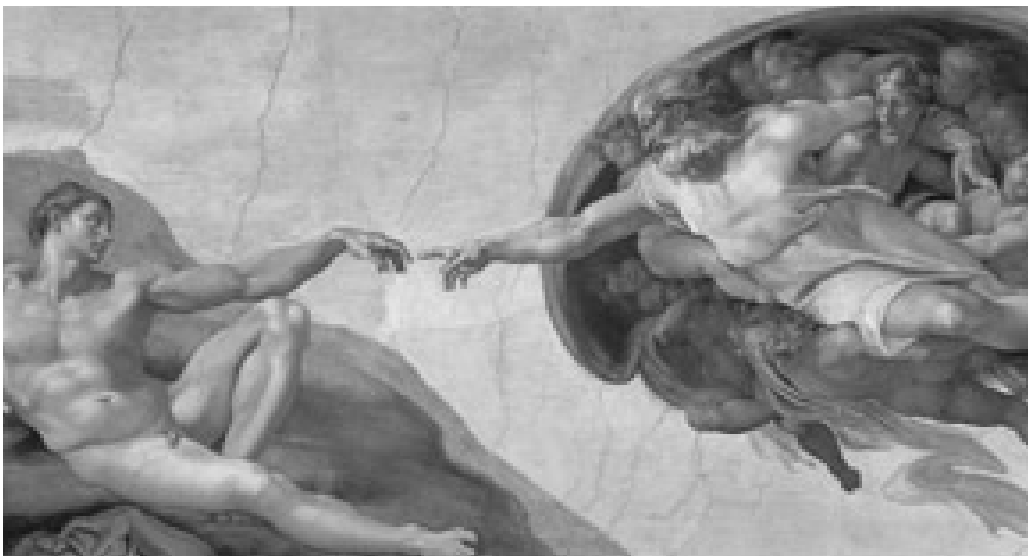


最近、いちばん話題を呼んでいる聖書があります。日本聖書協会発行の『アートバイブル』（新共同訳聖書抜粋）です。2003年4月の発行から現在まで、すでに2万冊が頒布されており、いまだにその勢いが止まりません。なぜ、これほどまでに反響を呼んでいるのでしょうか。今回はその真相を探るとともに、『アートバイブル』の見方、読み方など、その醍醐味に迫ってみました。

キリスト教専門書店で軒並みベスト10入り

キリスト新聞社（東京都新宿区）が全国のキリスト教書店の協力を得て二カ月ごとに集計している「注目の10冊」5～6月では、『アートバイブル』は、キリスト教出版販売協会系書店（NCC系書店）では第二位、福音系書店では第七位、カトリック系書店では第一位という売れ行きを示し、最近の七～八月集計でも上位にランキングされています。

東京銀座の教文館書店でも、三、四階のキリスト教関係のフロアでは平積みさ



アダムの創造（ミケランジェロ）：1508―1512年

れ、また一階の銀座通り店頭でも販売されて道行く人が手にとる光景も見られました。

大反響！ 名古屋と東京で講演会を開催

この反響を受け、二〇〇三年一〇月九日（木）には名古屋にある愛知県産業貿易会館で、二月一（日）（金）には東京の日本基督教団銀座教会で、それぞれ一〇名以上の参加者を招いて、「名画に輝く聖書のメッセージ―アートバイブルをどう見る、どう読む」と題して講演会が開催されました。『アートバイブル』監修者であり、バイブル・アンド・アート・ミストリーズ代表の町田俊之・まちだ・としゆき氏がメイン講師として、美術伝道の観点から、名画の解説を中心としたユニークな講演をされました。

今回は、町田俊之氏に聖書の観点から名画の解説をしていただきました。

作品解説（町田氏の講演より）

芸術作品の背後には、その時代の思想や経済、信仰に至る要因が深く関わっています。その背景を知ると、作品の真の鑑賞者になれるでしょう。また、作品を通して聖書のみ言葉に触れるなら、これまでとは違った聖書への洞察に導かれるに違いありません。

・アダムの創造（ミケランジェロ）1508―1512年

この作品ほど、世界中の多くの人に強烈な印象を与えている絵はないでしょう。神は愛といつくしみをもて、また知性と理性に基づいて、ご自分に似たものとして、最高の作品である最初の人（アダム）を造られました。またアダムも、神に全幅の信頼を寄せています。互いに見つめ合う目、触れ合わんとする指先、同じ方向に向いている足。神と人間が一体とされ、人間が神に対してうるわしい関係を持つていたことをこのように視覚的に訴えているのです。私たちがこの絵を見て心地よさを感じるのも、そんなところから来ているのでしょう。また、人間はこうして神によって創造されたゆえに、自らの持ついのちの尊厳を確かに見ることができ



バベルの塔（ブリューゲル）：1563年

●バベルの塔

（ブリューゲル）1563年

ブリューゲルは、貴族や有力者の華やかな生活ではなく、当時の農民たちの素朴な姿をありのままに描いた画家として有名です。この作品を隅々までよく見ると、背景の町や手前の港は、彼が生きていた当時最も繁栄していた港町アントワープで、絵に描かれた塔も、当時の最新技術で築かれたものであることが分ります。つまりこの絵は、旧約時代を想定して描かれたものではないのです。では彼は、どうして当時の風景を背景に「バベルの塔」をテーマに描いたのでしょうか。

アントワープは、国外からもさまざまな人種が寄り集まり、さまざまな言語が話されていたところでした。またこの地域は、カトリックとプロテスタントの宗教的混乱もあり、その町に住む人々の間には「コミュニケーションがうまくとれていない状況がありました」。

まさにブリューゲルは、自分が生きている時代の混乱した現実と、「バベルの塔」の聖書物語に示されている真実とを重ね合わせることで、神から離れているがゆえの混乱を当時の人々に風刺的に示そうとしたのではないかと想像されます。そうしてみるとこの絵は、現代に生きる私たちにも鋭い警告を与えていると言えるのではないのでしょうか。

『アートバイブル』を旅する

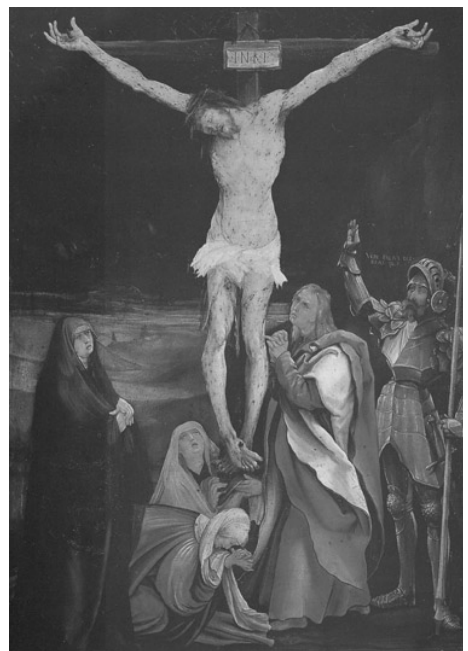
『アートバイブル』に感動して、実物を見にヨーロッパまで?! そんな夢のような本当の話が「アートバイブルと訪ねるヨーロッパ美術館12日間の旅」として実現しました。11月3日(月)～14日(金)、監修者の町田俊之氏に導かれた30名の参加者が、ヴァチカン、ルーブルなどヨーロッパの有名な美術館計9館やいくつかの教会堂など、全部で200点以上の名画を観てまわりました。ふだん画集だけでは味わえない本物を見る感動が、聖書のみ言葉をさらに親しみ深いものとしてくれたようです。



参加者のみなさん(バチカン美術館中庭にて)



エマオのキリスト（レンブラント）：1648年



百人隊長の信仰（グリューネヴァルト）：1502年

● 百人隊長の信仰（グリューネヴァルト）1502年

この作品の背景には、ペストという病気が一四世紀中頃から一七世紀中頃にかけてたびたび発生し、大流行したという事実があります。ペストは罪に対する神罰であり、祈り、断食、懺悔、巡礼をよく行うことで撃退できると当時の教会は説いていました。またその時代には、天然痘によっても多くの犠牲者が出ていました。さらに宗教改革が始まる前夜には、カトリック教会の腐敗があり、諸侯、聖職者による絶対権力の中で貧しい農民たちの苦悩がありました。

この作品を見ると、グリューネヴァルトは、同時代のイタリア・ルネサンスのような理想的な人間像を描くのではなく、醜さの中にこそ真実を見いだそうとする意図がうかがわれます。ロマネスクから盛期ルネサンスに至るまで磔刑のキリスト像は、十字架上での栄光の勝利者、すでにこの世には属さない超越的絶対者として表現されてきました。しかし後期ゴシック時代になるとキリストは、死を苦しむ生身の人間イエスに変貌します。グリューネヴァルトの十字架像は、まさに死そのものによって腐敗するキリスト、肉とともに滅びるキリストという印象を受けます。

この絵で百人隊長は十字架上のキリストを指し示し、キリストへの信仰を文字として告白しています。まるで百人隊長の姿を借りて作者が私たちに信仰告白をしているようです。

一五二五年に起きた農民戦争でグリューネヴァルトは農民の側に最後までつき、自らの宮廷画家としての地位を捨てて、最後はペストによって死んでいきます。

● エマオのキリスト（レンブラント）1648年

これは、レンブラントが四〇代だった成熟期の作品です。復活したキリストがエルサレム近郊の村エマオで二人の弟子と宿を共にし、パンを割いて祝福を与える場面です。このとき初めて彼らはその正体を悟り、次の瞬間、イエスの姿は見えなくなります。同時代のほかの画家はこの場面をドラマチック、ダイナミックに描いています。レンブラントは明暗を抑えた静けさ、単純化された筆運びの中に復活のキリストを着実にとらえています。静謐な中にも力強さを感じさせる絵です。

レンブラントは、特別な出来事としての復活ではなく、日常生活の中にこそキリストは復活され、私たちのそれぞれの人生にも現れてくださることを描きたかったのではないかと思わされます。

美術を通してみ言葉を伝える

監修者 町田俊之氏に聞く



町田俊之氏

ロンドンのナショナル・ギャラリーやパリのルーブル美術館などの絵画はキリスト教がテーマだと知っていましたか？ミケランジェロやレンブラントなどの聖画を見ると、画家の生き方や聖書理解が、新たな感動とともに伝わってきます。

Q そもそも先生が美術伝道者を志すきっかけは何だったのでしょうか？

美大二年の時、英語教師だったアメリカ人宣教師に誘われて初めて教会に行きました。浪人中に挫折を経験し、人生の土台を築きたいと思っていたので、間もなく信じました。それまで私にとっては美術がすべてでした。それが、キリストこそすべてだという思いに変えられて、それでは美術とは何だろうと考えました。神様と美術とは関係がないのか、神様は美術には関心をもっておられないのではないかと考えたのです。

大学卒業後、デザイン事務所働いてから、七年間、牧師をしました。その後、もう一度、神様と美術の関係を考えようと思い、仲間と聖書研究会で学びました。そこで、大宇宙や大宇宙の美しさ、そして神様がその美の創造者であることに気づいたのです。そうであるなら、美を通して神様を伝えられると思い、八年前にバイブル・アンド・アートミニストリーズを設立し、今春から美術伝道者となりました。

Q 今、アートバイブルが発行されることにどんな意味があるのでしょうか？

一般の人は西洋絵画をたくさん知ってはいても、聖書との関係、画家の信仰についてはあまり知りません。それを、聖書を通して理解できるなら、とても有意義で面白いと思います。

す。『アートバイブル』は彼らが聖書に近づくきっかけになるでしょうね。

クリスチャンにとっても、有名な画家がその信仰をどう表現したかを見ることは意味があると思います。画家のことを丹念に調べると、その信仰や生き方が見えてきます。

たとえば、フラアンジェリコはイタリアのルネサンスの初期の画家ですが、非常に敬虔な人物で、聖書をよく読み、キリストの十字架の絵は涙なしには描けなかつたそうです。このように、信仰を表現するために自分の才能をさげた人たちがいたんですね。その作品を見ると、やはり感動します。

また、自分が聖書を読んでイメージしていた場面と、過去の画家たちが描いたものを比べると面白さもあります。文字から漠然と考えていたイメージが、絵画を通してさらに広がり、新しい発見もあります。それがまた、聖書の深い理解につながっていくと思います。

Q 先生は『アートバイブル』をどのように活用されていますか？

『アートバイブル』は、同じテーマで何人かの画家の作品を比べて見られるのがいいですね。作者の視点によって表現が違います。それが分かると、聖書を読む時も、いろいろな視点で理解できるようになります。聖書には権威がありますが、どんな名画であつても、絶対的な権威があるわけではありません。聖画もそれぞれ、時代背景や信仰のあり方が違うため、表現の仕方方もみな違います。ですから、美的な表現は、一つの証し、信仰告白として見れば、そこから多くのことが学べると思います。

Q 信仰と美術について考えるところから、将来の日本伝道のめざす道が見えてきそうな気がするのですが……

私たちが聖書を読む時には、理性を用いて、神学的・教理的な探求を重視することが多いですが、もっと感性を用いて、芸術的な探求をすることも大切なのではないでしょうか。日本のプロテスタント教会では、そうした感性があまり育てられてこなかつたように思います。その結果、この世の感性のほうに魅力的に見えて、クリスチャンたちの心を奪ってしまうているのかもしれないですね。

だからこそ、これからは、この世の人たちに逆に魅力を感じてもらえるようなキリスト教文化が創造されるべきだと思います。プロテスタント美術における神学が、今こそ必要とされているのではないのでしょうか。

Q 好評だった『アートバイブルの旅』は来年は予定されていますか？

オーストリア、ドイツ、ロシアなどの美術館を訪ねます。本物を見ることが、また別の次元で私たちに迫ってくるものがあると期待しています。

『アートバイブル』を使って 聖書を学ぶ会 レポート

「絵画を見ながら、聖書をリアルに体感してみよう」。そうした信徒たちの声から始まったのが『アートバイブル』を使って聖書を学ぶ会。東京都杉並区にある有名なブース記念病院に隣接する救世軍杉並小隊集会室で毎月第二日曜日の礼拝後のひとときを利用して行われています。だれでも自由に参加でき、小隊の信徒や、絵に関心のある近所の人たちが毎回三〇名ほど集っています。講師の志村善也氏（救世軍士官）が、プロジェクターで映写された『アートバイブル』の絵画を観ながら、信仰と神学の観点から名画を解説されています。

私たちが出席したのは、一一月の第三回目。「樂園追放」の個所を、いろいろな絵画を比較しながら丹念に学んでいるところでした。絵画の中の意外な表現を通して聖書のみ言葉に新たな光が当てられ、参加している人たちも一つ一つの解説に感心しながら聴き入っていました。「読んだだけでは分かりにくい内容が、絵を見ながら解説がつくとハッキリしてきます」「ふだん気づかない点などが教えられて毎回楽しみます」「みんなで絵を見、み言葉に触れることは楽しい」など、とても熱心な感想を参加者は語ってくださいました。

この会は二〇〇三年九月から始まり二〇〇四年七月まで旧約編、その後、新約編を続ける予定です。



会の様子

（編集部）

『アートバイブル』プレゼントに応募者殺到！

朝日新聞10月1日（水）付の夕刊、情報コーナー「マリオン」に『アートバイブル』のプレゼントに応募したところ、849通のお申し込みをいただき、大反響でした。抽選で10名の方に『アートバイブル』をお



贈りました。応募者は首都圏の方が圧倒的でしたが、一般の大型書店で平積みなどされている中で、クリスチャンに限らず、一般の方にも評判が高いことを示しているのかもしれません。



銀座の街のと真ん中に「聖書のみ言葉を流す電光掲示板」が登場しました。これは、日本聖書協会が所有・管理する「聖書館ビル」（東京都中央区銀座4・5・1）に「LED…屋外型マルチカラー表示装置」が設置され

銀座の街にみ言葉の光?!

たことで実現しました。ビルの四、五階に取り付けられたタテ5m、ヨコ0・九五mの電光掲示板には、「初めに、神は天地を創造された」「初めに言があった。言は神と共にあった」という『創世記』『ヨハネによる福音書』の冒頭部分をはじめ、季節などを考えた聖書の有名なみ言葉も流しています。また、「聖書が見える、名画が読める。『アートバイブル』を発売しています!」といった聖書の広告宣伝も流されており、PR効果のねらいもあります。

二〇〇三年一〇月六日から開始しましたが、この電光掲示板を通して、銀座の街を歩く人たちに聖書の福音を少しでも伝えられたらと考えています。また、「日本の聖書普及の団体が銀座にある」ということを今後アピールしていく予定です。

「聖書館ビル」は銀座四丁目の交差点裏側に位置していますが、人通りの多い松屋通りでこうしたLEDの電光掲示板が設置されたのは初めてで、これから銀座の街の名物になるかもしれません。みなさんも一度、銀座に来てみませんか?

聖書の世界 - 牧会書簡と初期キリスト教

辻 学

つじ まなぶ

関西学院大学商学部助教授・宗教主事



テモテへの手紙一・二とテトスへの手紙の三通をまとめて「牧会書簡」と呼ぶようになったのは一八世紀以降とされているが、相互の関係やひとまとまりとされている理由については、これまであまり明確な答えが与えられてこなかった。ここでは、牧会書簡がパウロの死後、紀元二世紀前半に書かれた偽名文書だという前提でその問題を考えてみたい。

三通の手紙が前提としている状況

テモテへの手紙一（以下 テモテ書）は、マケドニア州に去った（おそらく今もそこにいる）パウロが、エフェソに残したテモテに送った書簡という設定になっている（1・3）。テモテがパウロから託された務めは、誤った教えが流布しないよう教会を守ることであり（1・3、4、6、20、21）、これがテモテ書全体を枠づける中心主題である。書簡の中でパウロは、自分が間もなくテモテのところに行けると考えているが（3・14、4・13）、短期間の不在にしては、監督・執事などの資格に関する指示はあまりに細かく、不自然な感じがする。では、なぜこのような状況設定が必要だったのだろうか。

いたことになっている。テトスの務めは、「残っている仕事を整理」し、町々に長老を立てることである（1・5）。このように、それまでの活動場所から離れたパウロが、残された弟子に、自分の仕事の継続を命じるという状況設定は、テモテ書と共通している。異なる教えへの対抗、教会指導者の確立という仕事の委託だけでなく、パウロと後継者（テモテ・テトス）の再会が早期に予定されているという点でも、この三通は並行関係にある。もっとも、テトス書の場合は、パウロが戻ってくるのではなく、テトスの側がパウロに会いに行くことになっている（3・12）。

他方、テモテへの手紙二（以下 テモテ書）が描く状況は、ほかの三通とは全く異なり、共通点や連続性を示すものがほとんどない。テモテ書のパウロは、囚人（1・8）となつて現在ローマにいる（1・17）。1・4でのテモテの「涙」とは、「再会の喜び」と対比されていることから、パウロとの別離の際に流された涙を暗示しているのであろう。この「涙」は、再会を前提にしている。テモテ書の場合と異なり、二人の別離が最終的なものであることを明示している。いずれにせよ、テモテとパウロは（テモテ書の時とは全く別の状況で）現在離れている。テモテがいる場所は、1・18、4・19から考えれば、エフェソであろう。つまりこの書簡は、ロー

新約

マからエフェソに宛てられたという設定になっているのである。

テモテ書2・17にはヒメナイ、4・14にはアレクサンドロという人名が出てくるが、この二人は テモテ1・20でも言及されている。ところが、テモテ書では並んで挙げられているのに対し、テモテ書では別々に登場する。両書簡が短い時間間隔で連続しているという設定であれば、このような言及の仕方は考えられない。これはむしろ、テモテ書と テモテ書が、同じエフェソの状況を述べていながら、時間的にかなり隔たっていることを示していると考えられる。

同じことは、テトスへの言及についても言える。テモテ4・10によれば、テトスは現在ダルマティアに行っているが、テトス書執筆時にはクレタにあり、こうした状況との関連は、テモテ書では何ら意識されていない。つまり テモテ書は、テトス書の状況とも時間的に連続していないということが、ここにも暗示されているのである。

以上の比較を通して明らかになるのは、三

つの文書が相互につながるの状況为前提としてということである。 テモテ書とテトス書は内容的によく似た状況を描いているが、空間的には離れている。また テモテ書の描く状況は、 テモテ書ともテトス書とも時間的に断絶しており、両書簡を踏まえて書かれたという設定に全くなっていない。

つまりこの三書簡は、特定の状況で特定の問題をめぐって一気にひとまとまりのものとしてパウロが書いたのではなく、それぞれがパウロの生涯の中で別々に書かれ、後にまとめられたにすぎないという体裁をとっているのである。

著者の意図

教会書簡の著者がこのような体裁をとったのはおそらく、三通に共通する主題、すなわち異なる教えをめぐる問題が、パウロの生涯における特定の局面に限られた問題ではなく、彼を常に悩ませていた重要な問題であったという印象を読者に与えるためであったろう。著者はこの三通を、パウロの生涯の中に散在させることによって、異なる教えへの対抗という課題に時間的・空間的広がりを与えようとした。この課題はパウロの行くところにも広く存在し、生涯の最後まで彼を悩ませていた。その問題に今、教会書簡の読者も直面しているのだというわけである。

三通でひとまとまりにするという考えは、当時の教会ですでにパウロ書簡の収集が行われていたことを手本にしたのであろう。パウロの「遺訓」とも言うべき テモテ書を（おそらく教会書簡の最後に）加えたのは、これ以上の「パウロ書簡」が作成されることを未然に防ごうとの意図によるのかもしれない。また真正パウロ書簡と違い、教会宛ではなく個人宛の書簡という設定にしたのは、個人宛であるほうが、パウロの死後そうとう経ってから発見されたものだと言張しても不自然な感じを与えないからだったと考えられる。

教会書簡は、細部の記述はもちろん、全体の構成に至るまで念入りに作られた偽名文書であり、パウロ亡き後の初期キリスト教会の様子を窺わせてくれる貴重な文献である。

* 註
教会書簡は、パウロの死後、その後継者によって著されたというのが学界のほぼ定説。「偽名文書」とは、著者が自分の名前だけでなく他人の名前を用いて書いた文書だが、必ずしも悪意のあることを意味しない。教会書簡の場合も、パウロの立場を正しく継承しているという自覚の表現としてパウロの名が借用されている。

本稿は2003年5月の神戸バイブル・ハウスにおける「第1回聖書セミナー」の講義内容をもとに執筆いただきました。

み言葉を芸術にする

渡辺 総一

カナダの教科書に載った聖句選集の絵

エッセー

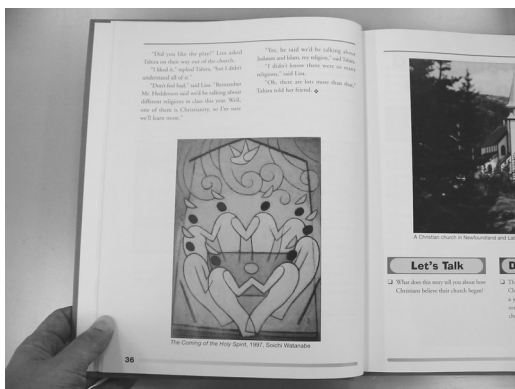
20

二〇〇二年九月、カナダの出版社から速達便が届き、私が描いたペンテコステの絵をカナダの小学校教科書に掲載したので許可がほしいということでした。それは日本聖書協会の聖句選集のために描いたものですが、日本の教会の方々だけでなくカナダの子供たちにも見ていただくことになりました。拙い絵がこのように用いられて感謝しています。

この絵は、一九九七年の制作ですが、前年キリスト教美術展第二〇回展に百号で描いて出品したものを、改めて聖句選集に使うにあたり小品に描き直したものです。ペンテコステの物語は使徒言行録二章に記されていますが、「聖霊降臨」とも言われています。聖霊が弟子たちに下ると、心が一つにされて、キリストの復活を宣べ伝える群れになりました。この絵で特に描き表したいと願っていたのは、「教会の一致」ということでした。

翌年、アジア・キリスト教美術協会(ACAA)二〇周年記念会がインドネシアのバリ島で行なわれました。主題は「キリストにある希望と新しい創造」というもので、日本のキリスト教美術協会からも私一人が出席することになりました。そこにはアジア全域から約七〇名の作家とスタッフが集まりました。参加者の信仰は、プロテスタント、カトリック、正教会というようにエキュメニカルな会で、各自が持ち寄った作品の美術展と講演会、シンポジウムがありました。私は「ペンテコステ」と「新しいエルサレム」を持参しました。参加者は作品の前で自作の説明をして、交わりの時を持ちました。各国のさまざまなキリスト教美術作品と作家との出会いから、たいへん刺激を受けました。そして、この時の交わりをきっかけにして、ACAAのホームページに作品も掲載されることになり、これをカナダの出版社(Breakwater Books)が見たのが教科書掲載に至る経緯です。

教科書は、カナダのユーファンドラントとラブラドル州の小学四年生向けの倫理(宗教)の授業で使われ、キリスト教ばかりでなく、ユダヤ教やイスラム教など他の信仰生活も分かりやすく紹介しています。これはカナダでも新しい試みで、二〇〇三年に出されましたが、その反響が大きく、今後カナダ以外の



聖句選集の絵が載ったカナダの教科書

国の出版社に版權販売も検討しているそうです。確かに、送られてきた本の装丁も内容も、子供たちのために行き届いたもので、感心しました。日本の子供にもこのような本があればと思うほどです。

このように私は、聖書を主題にした絵を二〇年前から描きだしたのですが、その土台となった聖書との出会いは、さらに一〇年ほど遡った学生時代でした。仙台の東北学院大学で指導してくださったキリスト教学科の先生方や、大学四年から導かれた宮田光雄先生の学生聖書研究会によって、聖書の世界がどんなに深く、豊かで、真実であるかを教えていただきました。一麦学寮という少人数の寮生活も経験させていただき、そこで自分の醜さや罪の自覚、そしてそのような自分でも受け入れてくださる十字架の出来事に気づかされ、洗礼に導かれました。

卒業して就いた仕事は経理部の統計処理でしたが、読み取ったデータを図表にして報告すると関係者に喜ばれました。この経験によって私は、神様からの賜物に目を向け、自分のなかに美術的な才能が与えられているなら、それを素直に受け入れ、活かしていくべきだと思うようになりました。そこで六年勤めた会社を辞め、美術学校で勉強しました。

学校での四年目の冬、自分の取り組むべき主題が聖書であることを自覚させられました。絵画は自己表現だと言われていますが、私にとって自己を語るとは、これまで導かれてきた聖書の世界を描くことでした。聖書は、自分がこれまで問いかけられ、また支えられてきたもので、だれかに代わって描いてもらうことのできないものでした。こうして、これまで個展を八回開き、一〇年前から毎年キリスト教美術展に出品してきましたが、そのほとんどが聖書を主題にした作品です。

ACAAのバリ島での経験でいちばん教えられたのは、アジアの作家は当たり前のように欧米で美術展を開いており、日本の作家も海外へできるだけ発信する必要があるということです。二〇〇〇年に日本クリスチャン・アカデミー主催で、ドイツ、スイスでの文化交流として、ノアの箱舟」を主題にした能公演があつたのですが、それに合わせての作品展へのお誘いにも、その思いもあつて参加させていただきました。そこでヨーロッパの教会や信仰生活を垣間見て、キリスト教美術の遺産の大きさと層の厚さに圧倒されました。そして、日本でのキリスト教美術はまだ始まったばかりであり、これからなのだと思います。今後百年、二百年と展開するであろう日本でのキリスト教美術の歩みを想い、期待と大きな希望を与えられました。

田中忠雄先生、渡辺禎雄先生、舟越保武先生、上野泰郎先生などが中心になって発展させてきた日本のキリスト教美術展も二〇〇四年で二八回展を迎えます。今後、質量ともに発展していくこと、そして私自身も聖書から豊かに恵みを受けつつ、その応答として聖書の世界を描いていきたいと願っています。



渡辺総一（わたなべ そういち）
洋画家、キリスト教美術家協会会員

美のうしろにあるものを表現しようとした詩人・彫刻家

高村光太郎と聖書

鈴木範久

すずきのりひさ 立教大学名誉教授

クリスマスの詩

詩集『道程』や『智恵子抄』のなかの言葉は広く知られているが、高村光太郎の『クリスマスの夜』と題される一篇の詩についてはあまり知られていない。

わたしはマントにくるまつて

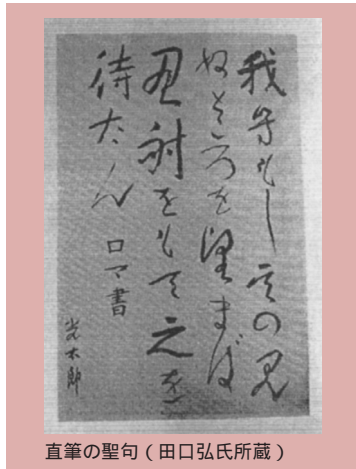
冬の夜の郊外の空気に身うちを洗ひ

今日生まれたといふ人の事を心に描いて

思はず胸を張つてみふるひした

（『高村光太郎全集 増補版 一巻 筑摩書房』以下引用は同全集による）

一九二二（大正一〇）年十二月、親友



直筆の聖句（田口弘氏所蔵）

の水野葉舟の家で行われたクリスマス
の帰途のことを詠んだらしい。その詩
はイエスを次のように描く。

此世で一番大切なものを一番むぎに求めた人

人間の弱さを知りぬいてあた人

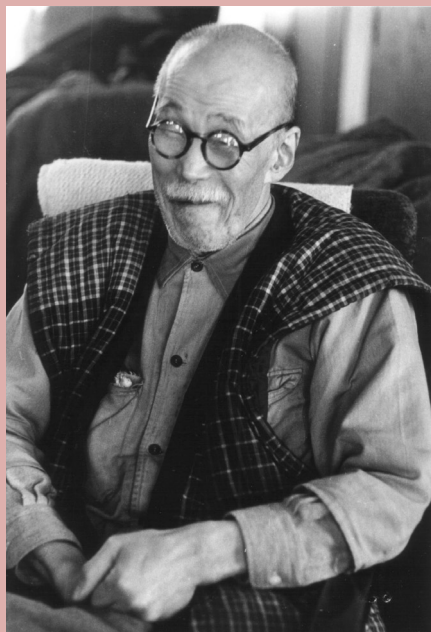
人間の強くなり得る道を知つてあた人

彼は自分のからだでその道を示した

高村光太郎は、その「泥にまみれた道」
に「わたしも行かう」と言つ。

植村正久との出会い

水野葉舟とは、雑誌『明星』を出して
いた与謝野鉄幹の新詩社の会合で知り
あつた。まだ高村光太郎は東京美術学
校彫刻科の学生であつた。水野は
植村正久の教会の会員だつた。水野の



生涯を通じてまことの美を追求しつづけた高村

影響で、のちの歌人、窪田空穂^{くぼたうつほ}なども植村から洗礼を受けていた。高村光太郎も水野に誘われて植村のもとを訪ねたことがある。そのときかどうか分らないが、高村が直接、植村のもとを訪ねた日、二人の間に次のような問答が交わされた。

「先生、僕はどうしてもクリスチャンになれないんですが、何かいい方法はないでしょうか」

「君はいま何をやっている？」

「美術学校で、美しいものを創ろうとしています」

「自然を見て美しいと思うか」

「思います」

「じゃ、だれがいつたいその美しい自然を創ったのか」

「自然が創ったんでしょ」

結局、植村から、もう一度よく考えてから来るように言われて引き帰した。高村光太郎は、ついにキリスト信徒になれなかったが、それ以来、美のうしろにあるものを考えつづけた。そして、うわべでなく、ほんとうに美しいものを表現しようとしてつとめた。

高村光太郎はまた、新井奥^{あらいおつすい}の読者^{よめい}読^{よめい}（一九〇二年刊）という小冊子を柳敬助^{けいすけ}から送られ、何百回も読み返している。新井奥^{あらいおつすい}は森有礼^{もりありのり}とともにアメリカに渡り、一八九九（明治三二）年、二八年ぶりに帰国、ほとんど人に知られぬままに世を去った特異なキリスト信徒である。高村光太郎は、奥^{おく}の書物のなかに、ほんとうに内なるものの表現を見出したのであった。

聖書

みずから信徒にこそならなかったが、高村光太郎は、「各年代を通じての座右の書」を聞かれて、聖書、仏典、ロダン

等」と答えている。あるいは懐妊した知人に対し、食生活をはじめとする細々とした注意を与えたとともに、「新約全書」のようなものを読むように勧めている。

埼玉県東松山市在住の田口弘^{たぐちひろ}氏のところに、高村光太郎から贈られた聖句の書があり、それには次の言葉が書かれている。

我らもし其の見

ぬところを望まば

忍耐をもて之を

待たん

ロマ書

ロマ書八章二十五節によっている。あわせて付された田口氏あての手紙には、「いまパウロの事をまざまざとおもひ、考へてまことにつよい反省に心が裸にされたやうに感じて居ります」とある。この手紙は、戦時に対する強い慚愧^{ざんき}の念をつたった「暗愚小伝」の書かれた花巻の山荘から出されている。

世界初の完成をめざして——

「手話訳聖書」の1日も早い完成のためには、すべての教会のお祈りとご支援を必要としています

手話訳聖書 ビデオ制作支援 2004パートナー・チャーチに ご参加ください

—— 約束献金(年額1万円)を5年間
おさげいただければ幸いです——

昨年4月、日本ろう福音協会ならびに日本聖書協会は制作協力覚書を調印しました。今後15年間で世界初の完成をめざして取り組んでまいります。

■ 完成までの総制作費は2億1千万円を要し、翻訳人件費、ビデオ撮影、編集費、制作費に用いられますが、とりわけ翻訳人件費の割合が大きく、安定した支援を継続するためには、この働きのための献金をお約束いただく「パートナー・チャーチ」を必要としています。

■ 「パ・トナ・チャーチ」とは制作支援の教会のことで、2004年から2008年まで5年間・年1万円の手話訳聖書支援献金の予約献金をお申し込みのうえ、ご都合のよい時期におさげいただくものです。本年は、2004 パートナー・チャーチとして800教会を目標に募っております。



▲ 現在発行されている『手話訳聖書ビデオ』

9書8巻・使徒言行録のみ上下巻2本組

(既刊：マルコ、使徒、フィリピ、テサロニケ1,2、ヤコブ、ガラテヤ、ヨナ・ルツ)

1巻：30分テープ1本分

詳細は、募金部へ
お問い合わせくださいますよう
お願いいたします。

TEL 03-3567-1980

FAX 03-3567-4436

E-Mail fund-raising@bible.or.jp

Support Request for the Production of the Sign Language Bible

編集後記

二〇〇三年の聖書協会は「アートバイブル」の年だったと言っても過言ではないと思います。四月のイースターの週に発行以来、わずか一週間でまたたく間に完売し、増刷を重ねて、現在までで約二万冊が頒布されました。三二五点という盛りだくさんの世界の名画がオールカラーで収録されていたながら、価格では二八〇〇円とお手ごろだったことが一つの要因とも言えました。台湾での印刷・製本がこの条件を可能にしたのです。

しかしながら、「み言葉と美術がうまくマッチした聖書」ということも、読者に新しい印象を与えたのではないかと考えられます。クリスチャンがとかく看過しやすい信仰と美術の関係。今回は特に、その関係に焦点を当てる目的で全体を編集しました。なかでも、「それを手がけた作者の思い、信仰、環境などを考えれば、美術は偶像としてではなく作品として相対化できる。クリスチャンもそうした視点から信仰と美術の深みを味わうことができる」という町田氏のお話しがとても新鮮でした。

『アートバイブル』が一つの影響力となつて、これまで理性に偏重しがちだった日本のキリスト教信仰が感性の領域にまで深まり、神の愛を実体験できる人がこれから大いに増えることを願っています。

本誌へご意見・ご感想をお寄せください。お葉書、Eメールなどでお受けいたします。お寄せくださった方には素敵な「絵葉書セット」をもれなくプレゼントいたします。
Eメール / info@bible.or.jp

聖ベネディクト読誦集

St. Benedict's Recitation Book(facsimile)

(ファクシミリ版)

11世紀

縦：39cm、26cm

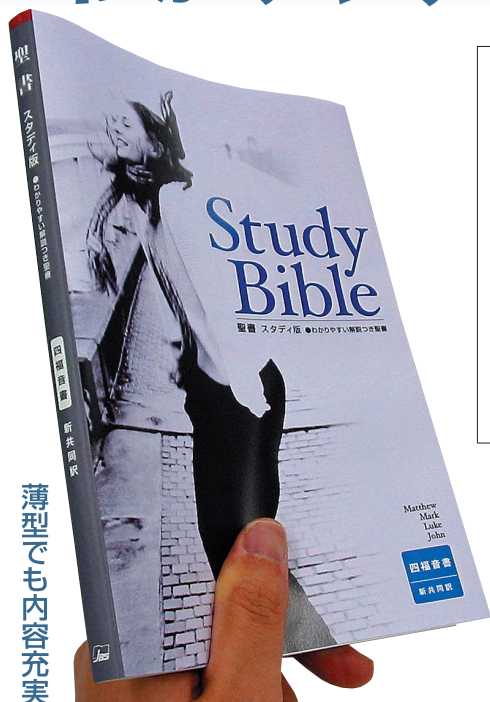


イタリア中部モンテカッシーノにあるベネディクト会修道院長デシデリウス（後の教皇ヴィクトル3世）の指示によって作成された絵入り読誦集。同修道院で、創立者の聖ベネディクトゥス、妹の聖スコラスティカ、愛弟子の聖マウルスの三人それぞれの祝日に際して、壮麗な礼拝堂で聖歌隊の朗誦に用いられたラテン語典礼書で、14、15世紀に書き加えられたごく一部を除くと11世紀後半に成るもの。「聖ベ

ネディクトゥス伝」「聖マウルス伝」の挿絵はいずれも、この聖人たちの生涯に応じて解説されているので、ラテン語の解説文を読めない読者にも図像の内容が理解できるようになっている。この読誦集は、細心の注意と選り抜きの華麗さをもって装飾されており、キリスト教史、教会史上の重要文献であるとともに、11世紀イタリア美術の傑作でもある。オリジナルはバチカン図書館所蔵。

わかりやすい解説つき聖書!

内容見本



薄型でも内容充実

2 マルコによる福音書 1

マルコによる福音書

11 福音

「良い知らせ」というギリシア語はしばしば「福音」と訳される。マルコによる福音書には、イエスが誰であるかについて書かれている。神の子という書きは、イスラエルの人々を支配するために神が選んだ王に与えられた(詩26-6)。マルコによる福音書では、イエスを神の子と呼ぶことによって、イスラエルを支配するように神がイエスを選んだことを主張している。

11 神の子

この言葉が書かれていない写本もある。

12 預言者イザヤ

およそ紀元前740〜701年までのユダの預言者。

14 預言者ヨハネ

ヨハネという名は「主は慈しみ深い」の意。

せんれいしや おし 洗礼者ヨハネ、教えを宣べる(マタ3:1-12、ルカ3:19、15-17)

1 神の子イエス・キリストの福音の初め。

2 預言者イザヤの書にこう書いてある。

「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、

あなたの道を準備させよう。

3 荒れ野で叫ぶ者の声がする。

「主の道を整え、

新発売!

ついに登場!

聖書本文と並行して歴史や文化、語源などに関する詳しい解説を掲載。絵や地図、年表なども入って内容充実。

初めて聖書に触れられるあなた、み言葉をもっと深く味わいたいあなたに待望の1冊!

A5判 272ページ 本体900円

聖書スタディ版(新共同訳)

四福音書(マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ)

聖書朗読と共に始まる一日 新共同訳 録音聖書CD版

一流の声優陣による爽やかな朗読。
簡易パッケージになって、CD全108枚がなんとこの価格!



根強い人気
大好評!

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 創世記〜申命記 (CD21枚) | 9,240円 |
| 2. ヨシュア記〜エステル記 (CD28枚) | 12,320円 |
| 3. ヨブ記〜マラキ書 (CD32枚) | 14,080円 |
| 4. 新約聖書 (CD27枚) | 11,880円 |

アートバイブル

(新共同訳聖書抜粋)

聖書が見える、名画が読める!

聖書に関連した世界の名画を本文の関連個所に掲載。掲載名画300点以上。巻末に各絵画の所蔵美術館索引も付いて便利。プレゼントに最適!



いま話題沸騰
絶賛発売中

A5変形サイズ、ハードカバー
528ページ、オールカラー

本体2,800円

日野原重明氏(聖路加国際病院理事長)推薦!

■注文のお問い合わせ・カタログの請求は下記まで



財団法人
日本聖書協会
JAPAN BIBLE SOCIETY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル

TEL 03-3567-1987 FAX 03-3567-4451 <http://www.bible.or.jp>

●ホームページからも注文できます(荷造送料別途)

財団法人 日本聖書協会のホームページ
<http://www.bible.or.jp>

編集協力 = 雑賀編集工房
デザイン = 株式会社 デザインコンピリア

印刷 = 株式会社 高速オフセット



この雑誌は
エコマーク認定の
再生紙を
使用しています

SOWER
ソア
No. 23

2004年1月1日発行
1月・7月の年2回発行

発行・財団法人 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目5-1 聖書館ビル
電話 03-3567-1988 FAX 03-3567-4451

振替 00160218410